

皆様お疲れ様です。鹿児島市医師会病院7階病棟では、CVポート穿刺・抜針を行うためのトレーニングや、化学療法看護の基礎知識勉強会、意思決定支援のひとつであるアドバンス・ケア・プランニングの勉強会など、看護の質を高め受け持ち看護師が役割を發揮できるように活動を行っています。今回は、基礎知識勉強会資料の中から、はじめて化学療法を受ける患者さんへ説明する内容のポイントをご紹介します。

「初回化学療法を受ける患者さんへお伝えすること」

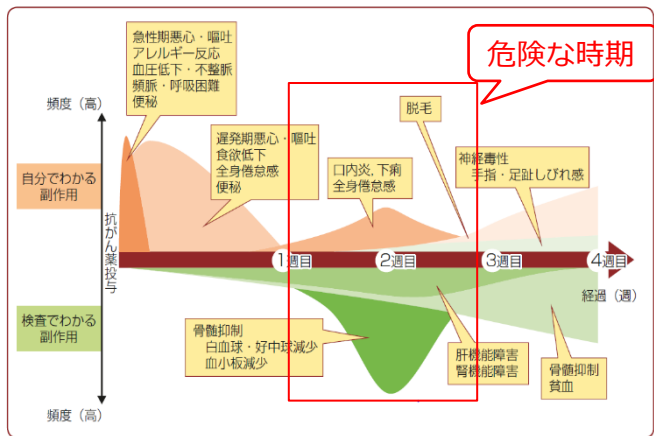
はじめて化学療法を受ける患者さんは、基本的に入院して治療を受けています。化学療法の件数は外来化学療法室が多いのですが、初回導入時の指導を行うのは病棟看護師の大切な役割です。

＜初回導入時は指導内容が多いので、ポイントをおさえて指導することが重要です＞

初回導入の入院中は、投与中の点滴管理や、飲み薬の管理方法、多数の副作用や対処方法、曝露対策、社会資源の活用など、お伝えすることがたくさんあります。今回は副作用の危険な時期と症状が出現したときの連絡方法を紹介します。

Point1 副作用が出現する危険な時期を伝える。

治療開始1週間後から骨髄抑制が出現します。骨髄抑制の強さは個人差があり、はじめて化学療法を受けた患者さんがどれくらい強い症状が出るのか予測は困難です。また、口内炎や下痢などの粘膜障害や全身倦怠感も骨髄抑制と同じ時期に出現し、**発熱性好中球減少症や脱水症状、腎機能障害など重篤な症状が出現するのは、治療をはじめて2週目が危険な時期**です。



化学療法を受けられる方へ **図2**

＜在宅での注意事項＞

- ☆白血球、好中球の減少に伴い感染しやすい状態になります。外出後の手洗い・うがい、入浴や歯磨きなど身体を清潔に保つように気をつけましょう。
- ☆抗がん剤を飲み忘れたら、次の予定時間に次の分から服用しましょう。
- ☆以下の症状があったら病院へ電話しましょう。

38℃以上の発熱

悪心・嘔吐により食事や水分が取れない

水のような下痢

手足の皮膚がむけたり、日常生活に影響があるような痛みがある

☆その他にも気になることや心配なことがあったら病院へ連絡してください。

電話番号：099-254-1125

「抗がん剤治療を受けています。●●科の先生に電話をつないでください」とお伝えください。

化学療法委員会 2016.8.31改訂

院内化学療法マニュアル

はじめて化学療法を受ける患者さんは、基本的に入院して治療を受けています。しかし入院期間は1週間。つまり、**退院してから次の受診日までには危険な時期**になります。

Point2 退院後も副作用が出現したらすぐに連絡することを伝える。

患者さんは退院してから副作用が出現しても「これくらい大丈夫かと思った」「もうすぐ診察日だから」と受診を控えてしまうことがあります。しかし、受診の遅れは生命を脅かす副作用の重症化につながることもあります。

＜指導方法＞

パンフレットの14ページに記載されている副作用の出現時期(図1)を用いて危険な時期を説明しましょう。おくすり手帳の最終ページに貼ってある化学療法を受けられる方へ(図2)を用いて、連絡が必要な症状、電話番号、電話口で伝える内容を提示しましょう。

はじめて化学療法を受ける患者さんの指導は病棟看護師の重要な役割です。化学療法を受けた患者さんが安全に生活を送れるように関わりたいと思います。

がん化学療法看護認定看護師：三浦ひとみ

